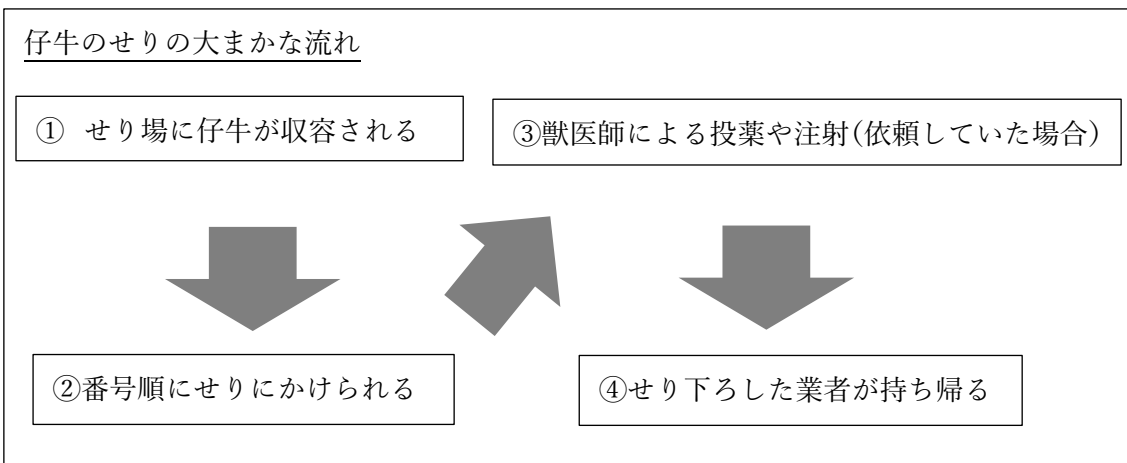


# 仔牛市場の見学を通して

石原熙人（2年4組）

<u>日付</u>	<u>見学場所</u>
令和4年8月5日	岐阜県関市 JA 全農岐阜関家畜流通センター
<u>見学に至った経緯</u>	
JA 職員さんとの畜産業についての話を通じて仔牛市場見学を提案していただいた。	

<u>仔牛市場見学における発見</u>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 仔牛の糞尿の後始末などの重労働が多い</li><li>・ 仔牛の扱いに危険が伴う</li><li>・ 衛生管理や個体識別管理に十分配慮して行われている</li><li>・ 他産業と比べて全体的に時間と手間がかかる印象がある</li></ul>



<u>仔牛市場見学の感想</u>
<p>今回見させていただいたのは畜産という産業におけるほんの一部でしかなかったが、畜産業の大変さを認識した。野菜や果物とは違い、動物の命を扱う営みである畜産は各個体の管理や衛生面の配慮などを重要視されており、重労働であることがうかがえた。もちろん農業や漁業も命と大きく関連するという点は同じだが、畜産業においては、時に人間より大きくて力の強い動物を制御したり、家畜が生物である以上素直に薬を受け入れてくれなかったりする。今回の家畜だった仔牛もそのような動物の一例だった。</p> <p>今回の見学から学んだことから、畜産業は海外に頼ることなく自国である程度自立させるべきだと強く思った。家畜を育てるための水、飼料、土地に加え、衛生面や家畜の健康面などに関する大量の専門家や人手が畜産の過程には必要になる。肉を輸入に頼るということは間接的にこの産業に従事する人々や機材の費用も負担していることになるのだ。どんな産業にも言えることだが、畜産業にはこの毛色が強いと思われる。</p>

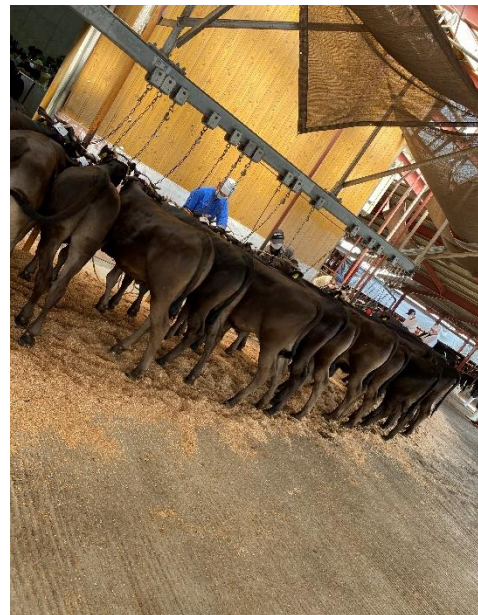
国内での生産消費量を増加することによって貿易に関わる費用や生じる税金を削減することで少しでも安定して安価な肉製品の供給を図ることが必要と考えた。しかし現状では解決には程遠い。以前 JA 職員さんから教えていただいたことだが、畜産業には新しい方針の転換がしにくく、すぐに結果に現れるとは限らないのだ。また、国産肉を安価に販売しようとする、海外に多く見られるフィードロット方式の生産の増加やコスト削減による安全性の低下などの新たな問題が考えられる。有力な解決方法を提案することは難しいが、問題解決の糸口になることが身近な範囲でできないか考えていきたい。

#### 課題と提案のまとめ

- 飼料の高騰や国産肉の消費量低下が進み、畜産業者がピンチ  
⇒ 家庭での国産の肉の消費の機会を増やし、少しずつ国の畜産業を盛り上げる
- 安価で大量の輸入肉流入によって国産肉消費が落ち込む  
⇒ 世界と日本の畜産業について知る機会を設け、畜産に関心のある人や輸入のデメリットに気づく人を増やす



移動に抵抗する仔牛



番号順にせりにかけられる仔牛